

## 2021 年度第2回幹事会 資料

開催日時:2021 年 8 月 5 日 20 時 00 分～

開催場所:オンライン開催 (zoom を利用)

### 議題

1. 学連登録の取り消し
2. ICSL について
3. 関東学連規約改正

### 資料

- |                                    |   |
|------------------------------------|---|
| 1.学連登録の取り消し・インカレ F クラス出走について ..... | 2 |
| 2.ICSL2021 について .....              | 5 |

# 昨年度登録者のうち、練習機会の少ない選手の学連登録の扱いについて

日本学連事務局長

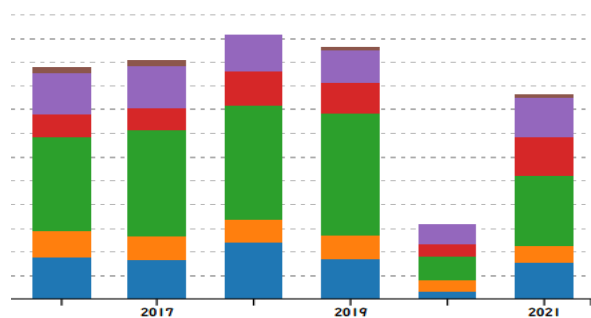
金澤晴樹

## 1. 概要

昨年度学連登録のあった新入生のうち、昨年度中の練習機会がほぼなく、昨年度の活動がほぼ皆無の方について、本年度のインカレでFクラスに走れないのは競技的に不利・不安があるとの声がありましたので、この件に関してどのような救済措置を取るかに関して、救済の有無も含めて議論したいと思います。

## 2. 今までの経緯

### ① 昨年度の新入生登録状況



直近6年間の1年目競技者数の推移。

2020年度は157名(取消者を含む)にとどまった。



昨年度の新入生学連登録の時期。

4~6, 10月の山がなく、後期に分散して登録がある。

例年は12月に学連登録期限を設けたのですが、昨年度は撤廃されました。この結果、学年度末にも多くの登録があるような状況となり、**ICMR中止決定後にも数件の学連登録がある状態**となりました。ちなみに、これは先日発覚した競技者登録漏れの遠因でもあります。

## ② 昨年度の学連登録取り消しに関して

昨年度の ICMR 中止に伴い、ICMR に出場するために学連登録を行い、学連行事に一度も参加していない新入生に関しては、本人の希望があれば昨年度学連登録を取り消すこととなり、3月21日の日学総会にて当時の事務局長の片岡さんから案内がありました。

(参考)実際の案内→



**ICMR2020中止に関する事務局の対応**

ICMR2020への参加のために学連に登録した選手への対応として、希望者を対象に過去に遡って2020年度の登録を取り消す対応を取ります。

- ・ **対象選手**  
2020年度に開催された学連行事(セレや秋インカレなど)に1度も参加していない学連登録1年目の選手
- ・ **注意点**  
2020年度学連加盟費の返金は行わない  
→取り消しを希望する選手は3/30までに事務局にメールしてください  
uofj.jimu@gmail.com

この措置で学連登録を取り消すことになったのは24名(内訳：名大22、阪大1、千葉大1)であり、この全員が今年度学連登録にて新入生として改めて登録されています。なお、3月で取り消し受付は終了しております。

## ③ 競技者の声

昨年度3/4になって学連登録申請があった学連加盟員数名(同じ大学)について、今年度登録と実質的に活動内容に全く差がないにもかかわらずインカレ(等の大会)でFクラスを走れないのは不利であるとして、昨年度学連登録を取り消したいとの旨の連絡がありました。

②の措置は3月で終了しているため、新規の救済措置を取るのであれば幹事会での決議が必要となります。ただ、厳密には前回の措置での取り消し対象外であったこと、**前回の措置とは異なる目的での取り消し希望**であること、取り消しに関して合理性のある理由であると判断したことから、幹事会での議論にかけようと思い議題に致しました。

### 3. 措置案と予想される問題点

#### ① 2.②における取り消し申請漏れの救済を兼ね、学連登録の取り消しを改めて募る

##### 【懸念点】

- ・対象になりうる選手は4~7月は2年目として活動しており、かえって不公平感を生む可能性がある。
- ・2.②での取り消し申請漏れの救済は本来必要ないものと思われる。
- ・追加登録者で取り消し希望者がいた場合、学連登録費の扱いが複雑になる。
- ・関東学連からの未納金がある状況で取り消しが出ると扱いが複雑になる。

#### ② インカレにおいて、2年目でも昨年度の活動が皆無の場合はFクラスを走れるようにする

##### 【懸念点】

- ・インカレ実行委員会、特にエントリー担当に負荷がかかる可能性がある。
- ・今年度新入生にとって不公平感がある。
- ・「昨年度の活動が皆無」の定義、確認が難しそう。
- ・「昨年度の活動が皆無」だったのは一部地域の大学に限られるため、地域ごとの不公平感につながる可能性がある。

#### ③ 特に救済措置を取らない

## ICSL2021について

日本学連幹事長  
若月俊宏

### 【本幹事会での議論事項】

- ①ICSL2021の開催判断基準の策定
- ②単日開催となった場合の移動

### ①ICSL2021の開催判断基準の策定

昨年度と同様に、本年度のICSL2021についても以下の2点において判断基準を設ける必要がある。

#### A. 開催形態（単日開催x2 or 2日間開催）

#### B. 開催可否基準

昨年度の基準を参考に、ICSL2021判断基準草案を以下の通り策定したので本幹事会で議論の上、承認されたい。

#### A.開催形態（単日開催x2 or 2日間開催）

どちらの開催形態でも開催可否の判断基準を上回る場合は...

A-1. 事前調査により見込み参加者数（選手権or全体）を見て判断する。

A-2. 二日間開催とする。

#### B.開催可否基準

大学側より参加許可が取れている選手権出場者の数が  
スプリント・ロングの...

B-1. いずれかで「ME 45人以上、WE22人以上」が参加できる

B-2. 両方で「ME 45人以上、WE22人以上」が参加できる  
場合、開催する。

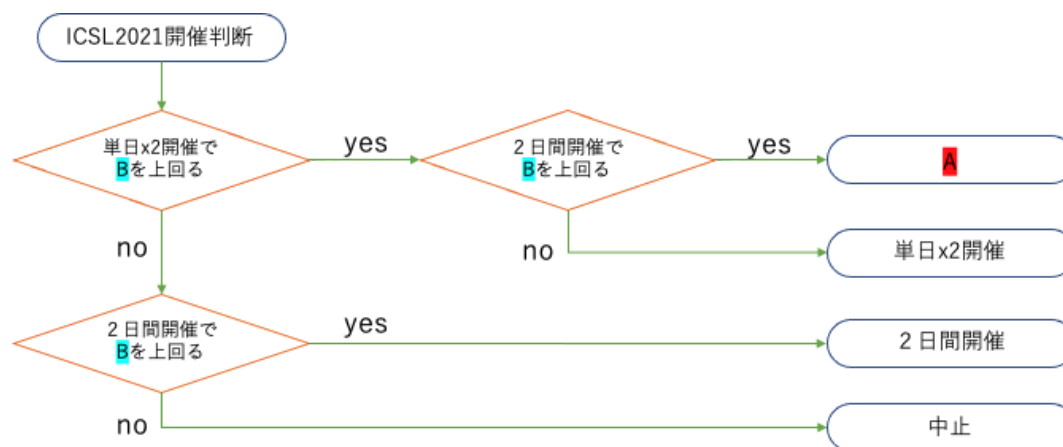


図1 開催判断フローチャート①

B-2を選択する場合、以下のような展開もありうる？

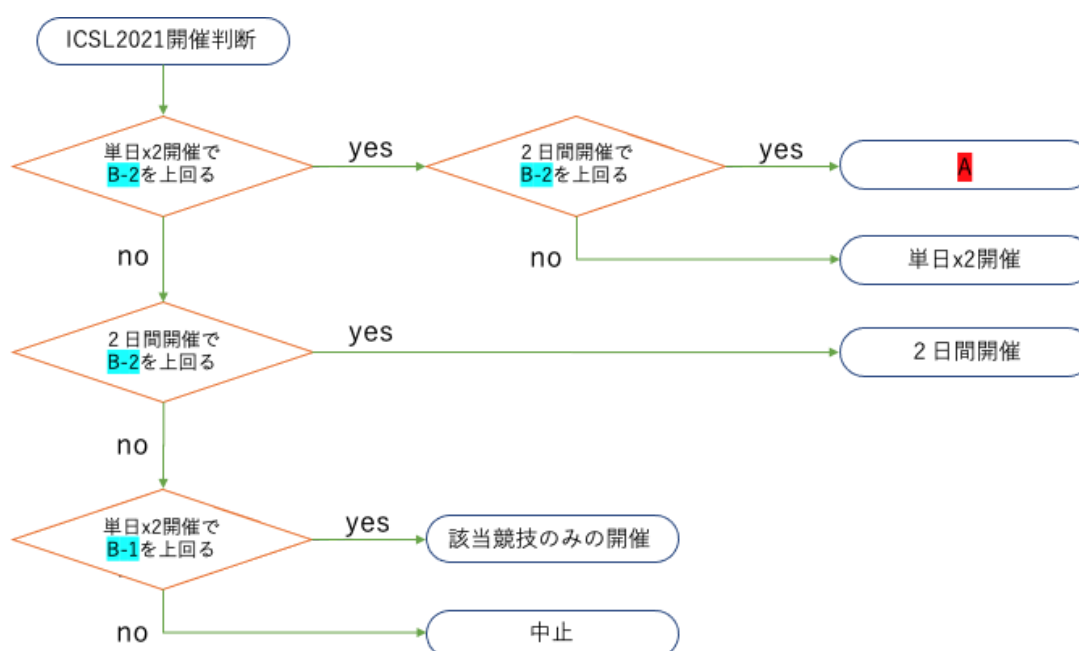


図2 開催判断フローチャート②

### 幹事会での議論

A,Bそれぞれにおいてどちらを基準に置くべきか、或いは全く別のフローチャートの可能性があるか、議論の上決定したい。

### ②単日開催となった場合の移動

単日x2開催となった場合に、どちらの競技を予備日に移動するかの議論。運営上どちらを移動することもできる場合にどうするかという話。特に異論がなければ以下のように決定したい。

11月19日以前の予備日への移動の場合→スプリントを移動・ロングを固定

11月22日以降の予備日への移動の場合→スプリントを固定・ロングを移動